

読むことと書くことを関連付けた説明文指導

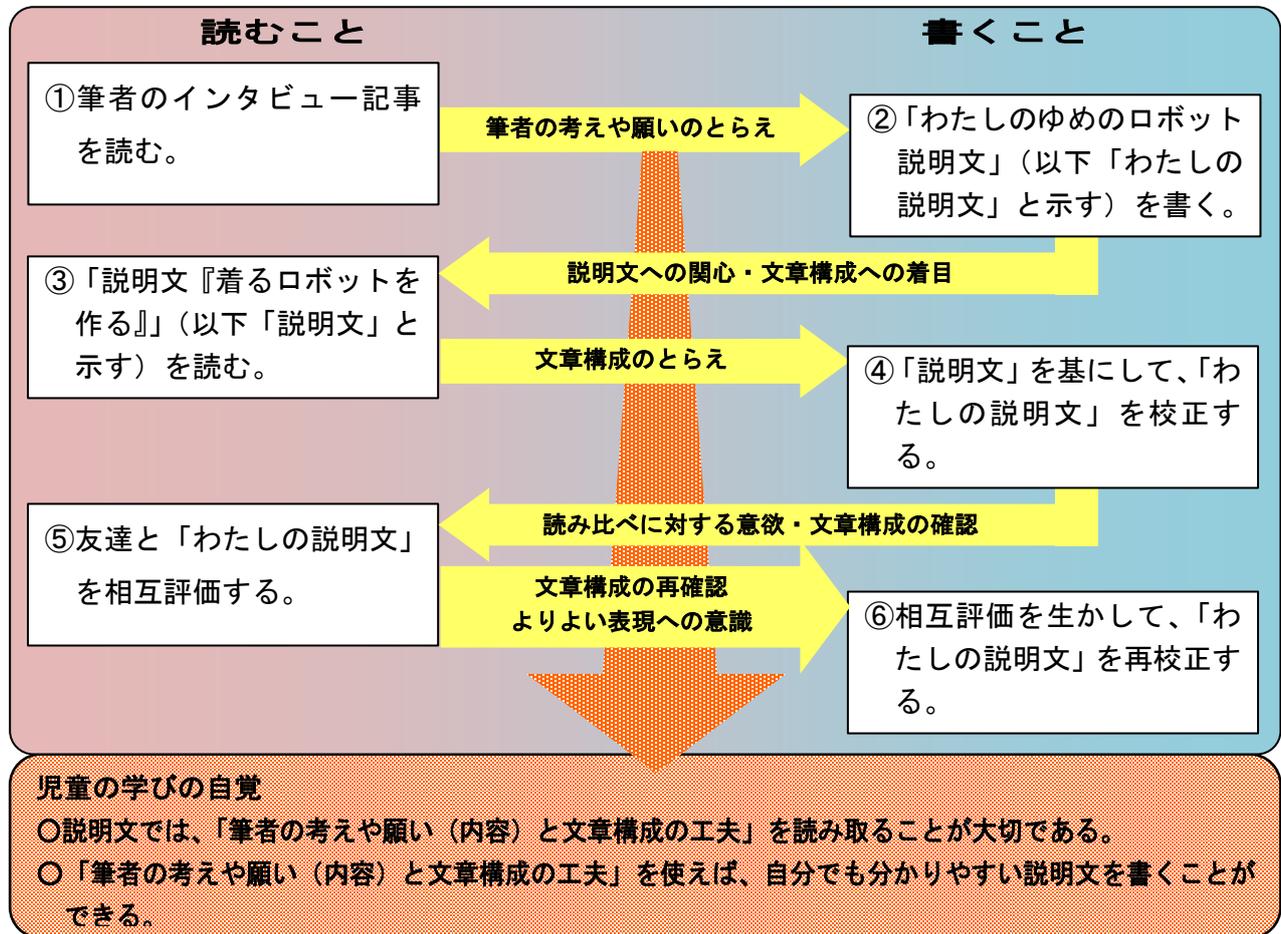
～第4学年国語「ゆめのロボット製作会社～『ゆめのロボット』を作ろう～」の実践を通して～

新潟市立巻北小学校 竹内 佳保子

児童の思考力や表現力、活用力を育成する観点から、説明文指導において読むことと書くことを関連付けた指導が求められている。関連付ける指導には様々な先行研究があるが、私は「読むことと書くことの横断的な組織」の効果을主張したい。説明文の命は、説明文の内容そのものと文章構成の工夫である。このことを、いかに児童に学ばせるか、そして、学んだことをいかに使えるようにさせるかが重要である。そのような指導の在り方を検証したいと考え、本実践を行った。

1 はじめに（研究の主旨）

「読むことと書くことの横断的な組織」とは、単に「読むこと」と「書くこと」を組み合わせることではない。読み取ったことが書くことに生かされ、書くことによって読みが深まるといった相互の活用が促されるような活動を展開していくことである。また、このような活動を展開することにより、児童の学びは自覚化され、思考力や表現力、活用力の一層の育成につながるものとする。本単元では、以下のような指導を展開する。



2 目指した子どもの姿

「わたしの説明文」を書くことで、「説明文」の内容や文章構成の工夫を明確に読み取ることができる子ども

3 指導の具体

単元名 ゆめのロボット製作会社～「ゆめのロボット」を作ろう～

教材名 「ゆめのロボット」を作る

(1) 目指した子どもの姿を具現するための手立て1

手立て1 インタビュー記事を基にして書いた「わたしの説明文」と「説明文」を読み比べさせる。

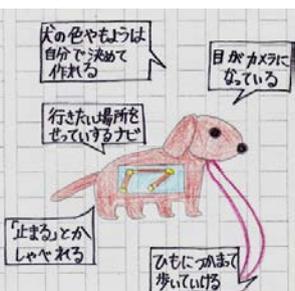
児童は、「わたしの説明文」と「説明文」を読み比べ、二つの文章の分かりやすさの違いから、「説明文」の内容や文章構成の工夫をとらえた。児童がとらえた内容や文章構成の工夫は次の通りである。

- 【内容について】
- ①だれのために、どんなロボットを作るか。(ロボットを作る人の願い)
 - ②ロボットをどのように使うか。(ロボットの使い方)
 - ③ロボットを使うとどんなことができるか。(ロボットを使う人の願い)
- 【文章構成の工夫(順番や分かりやすい表現の工夫)について】
- ①だれのための、どんなロボットか→②使うとどんなことができるか→③まとめの順番

児童は、これらの内容や文章構成の工夫を基にして、「わたしの説明文」を校正した。

〈A児が書いた「わたしの説明文」〉

わたしのゆめのロボットは、盲導犬型ロボットです。盲導犬の仕事をする。「ロボット犬」の目は、カメラになっています。ナジで行きたい場所を設定します。「止まる」などしゃべることができます。目の不自由な人のそばにいて、役に立つことができます。



手立て1



〈A児が校正した「わたしの説明文」〉

わたしの考えた「ロボット犬」をしようかします。

「ロボット犬」は、目が不自由な人のそばにいて、その人を案内する盲導犬型ロボットです。犬がきらいな人やアレルギーとかの人でも、この「ロボット犬」なら使えます。

この「ロボット犬」は、…(中略)…。

「ロボット犬」で、目が不自由な人の一人でお出かけしたいという願いを、かなえたいです。

校正した「わたしの説明文」には、教材文の文型や書く順番が生かされている。手立て1の活動により、児童が「説明文」の文章構成の工夫を強く意識したことが分かる。

(2) 目指した子どもの姿を具現するための手立て2

手立て2 「アドバイスタイム」を組織し、友達が書いた「わたしの説明文」が、「説明文」の内容や文章構成と整合した説明文になっているかどうかを、児童に相互評価させる。

よい点や改善点を「アドバイスカード」に書かせた。また、友達の説明文を読んで、自分の説明文の改善に生かしたい点を「発見カード」に書かせた。その後、「わたしの説明文」を再校正させた。

手立て2 「アドバイスタイム」による相互評価

〈A児への「アドバイスカード」の記述〉

○内容について

- (B児)目が不自由な人のためだと分かる。
- (C児)アレルギーがよく分からない。
- (D児)動物アレルギーとか書けば分かる。そうしたら、だれのためかが分かる。

○文章構成(順番や書き方)について

- (E児)しょうかい、使い方、願いという順番で書いてあって、分かりやすいです。

〈A児の「発見カード」の記述〉

○文章構成の工夫(順番や分かりやすい表現の工夫)について

H児…「～できるところがすぐれているところです。」



〈A児が再校正した「わたしの説明文」〉

わたしの考えた「ロボット犬」をしようかします。

「ロボット犬」は、目が不自由な人のそばにいて、その人を案内する盲導犬型ロボットです。犬がきらいな人や動物アレルギーで犬が飼えない人でも、この「ロボット犬」なら使えます。

この「ロボット犬」は、…(中略)…。

このロボットのすぐれているところは、人の言葉をしゃべるところです。人の言葉をしゃべるから、目が見えない人が安心して一人でお出かけできます。…(中略)…。

このように「ロボット犬」で、目が不自由な人の一人でお出かけしたいという願いを、かなえたいです。

アドバイスシート・発見カードと、再校正した「わたしの説明文」の記述から、手立て2の活動では、児童が内容をより意識したことが分かる。アドバイスシート・発見カードと「わたしの説明文」の_____や_____の記述は、「説明文」の内容「だれのために、どんなロボットを作るか。(ロボットを作る人の願い)」「ロボットを使うとどんなことができるか。(ロボットを使う人の願い)」である。

5 おわりに（成果と課題）

児童が書いた「わたしの説明文」と「説明文」を読み比べさせたり、互いの「わたしの説明文」を相互評価させたりしたことにより、児童に、説明文の内容や文章構成の工夫を確かに読み取らせることができた。また、説明文を読んだり書いたりするときの大切な視点として、内容と文章構成の工夫とを意識付けることができた。一連の活動により、単元の中に読むことと書くことを横断的に組織することの有効性が示唆された。

本単元は説明文を扱った単元であるが、今後は、教材の特徴やねらいに応じて組織する学習活動や講じる手立てを吟味し、読むことと書くことをより効果的に関連付けた単元を構想していきたい。